

# リレー訪問 農場に勤める

# 誇りと夢

## 第3回：勤める側がいい…の巻

各地の農場には優秀な若手が勤務している。数ある職場のなかで、農場に勤めることを選んだ彼らは、どんな夢を持っているのか。リレー訪問第3回は、(有)あぐり信州に勤める矢野智氏が(株)ピーチ専科ヤマシタに勤める吉野友裕氏を訪問する。

**矢野** 吉野さんはピーチ専科ヤマシタさんでどんなお仕事を担当していますか。



今月のホスト

### 吉野友裕 (28歳)

出身：東京都日野市  
所属：(株)ピーチ専科ヤマシタ  
雇用形態：社員  
備考：玉川大学農学部卒。  
2001年長野県のリンゴ園に就農。  
翌年岡山の農園に転職。2003年  
(有)ピーチ専科ヤマシタに転職。  
主にブドウと桃の栽培管理を担当。



今月のゲスト

### 矢野智 (30歳)

出身：愛知県刈谷市  
所属：(有)あぐり信州  
雇用形態：社員  
備考：名城大学農学部卒。脱サラし、1999年から長野県の野菜農家でアルバイト。2003年(有)あぐり信州に転職し、現在、経理から栽培管理までを担当。

**吉野** 主にブドウの生産管理をしています。ブドウはうちの生産量の1割ほどで、管理はすべて任せてもらっています。といっても、まだ入社して3年なので教わることのほうが多いくらいですが……。ブドウがやりたくて就農したこともあって仕事は楽しいですよ。

**矢野** こちらの会社にくるときには、すでにブドウでいくと決めていますか。

**吉野** 最初にブドウに関心をもったのは、学生時代に海外のブドウ農家がテレビで紹介されているのを見て、こんなふうなのんびり暮らしたいなと思ったときでした。農業を仕事にしようと思った後も、あのときのイメージからコマや野菜よりは果樹の方がいいなと。今思うと認識が甘かったのですが……。

**矢野** 就農してどれくらいですか？  
**吉野** ファーマーズフェアを通じて

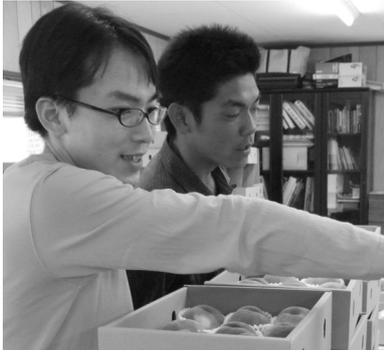
5年前に就農しました。ただ、そのときはブドウで採用してくれるところがなくて、結局は長野にある家族経営のリンゴ園に入りました。本当は、就農するなら家族経営ではなくて、何人か社員がいるような、ある程度規模があるところが希望でした。ブドウへの関心も捨てきれず、1年後、岡山のブドウをやっている農業法人に転職したんです。ただ、実際に働いてみてブドウさえ作れば仕事にやりがいがあるとということでもなかった。その後も転職先を探すなか、ファーマーズフェアで今の社長に会いました。たまたま同じ大学出身だったり、ブドウもやっているとということ、やる気があるのからと採用していただきました。

**矢野** 農業の現場は就農前のイメージとはだいぶ違ったかと思いますが、続けてこれたのはどうしてなんですか。

**吉野** 確かに就農前のイメージと違って現実には厳しいものですが、ブドウ作りが嫌になるようなことはありませんでした。農業をやってみて初めて知った魅力もありました。

**矢野** というか。

**吉野** 岡山で働いていたときに知ったのですが、ブドウは人の手が加わらないと流通しているような形にはならないんです。放っておくと花も



矢野さんに桃の出荷作業について説明する吉野さん。作業場には活気が満ちている

すごく大きくなる。そういったことを知らないでいたのに気が付いて、奥が深いなどさらに興味を持つようになりました。本当の意味でブドウ栽培の面白さに気付いたのは、このときだと思います。きれいなものを自分の手で作りだしたいという思いが湧きました。

**矢野** 厳しさと同時に魅力も知ることができたから続けてこれたのですね。ところで、ブドウ以外の点でも会社選びの基準があるようですが。

**吉野** 転職しながら農業をやってきで改めて痛感しましたが、いずれ独立して経営者という道ではなく、勤める側でいたいと思っています。独立してとなると、おそらく家族経営になるでしょう。とても加工や販売まで手が回らないだろうし、何か新しいことにチャレンジすることも難しくなると思います。そういった状況のなかで、ただ、メシを食っている

くだけというはイヤでした。せっかく作ったブドウも農協に出すだけじゃおもしろくない。食べる人に届けるといって、最後のところまで見届けたい。また、家族経営では妻も巻き込むことになる。夫婦だからって、わりやり押し付けることもよくないですし。

**矢野** なるほど。だからこそ勤めるところには、それだけの体制が整ってほしいわけですね。

**吉野** 独立したいっていいのであれば、夢としてわかりやすいかと思いますが、僕のようなスタイルで農業法人に勤める人はすごく少ないようですね。

**矢野** 実は、僕も同じような思いがあつて、その点すごく似ていると思います。そういった人に初めて会いました。

**吉野** 独立を考えていないっていうことで、農業に対して情熱がないんじゃないかっていう見方もされがちですが……。

**矢野** 農業で自分の城を構えるというのではなくて、農業を通して何を残していけるかって基準で考えると独立について違う見方ができると思います。僕も最初のうち、いずれは独立と考えたこともあったのですが、農業の現場を知るにつれて、独立してやっていくというのが、どれ



代表者

(有)ピーチ専科ヤマシタ

## 山下 公一

先代の父から25歳で農園を引き継ぎ、以後20年、桃を中心に生産。1998年に山下農園から法人化。ブドウやあんぼ柿なども生産するほか、加工・販売にも力を入れている。ホームページでの直接販売を主体に顧客を増やしている。また、新規就農希望者の独立を支援する「アグリネット倶楽部」も立ち上げた。経営面積4.5ha（うち借地2.5ha）。桃3.9ha、ブドウ0.4haほか。（HP：www.momo-net.co.jp）

ほど難しいことなのかというのを思い知らされました。それより同じ思いを持つ人が集まってやったほうが、一人ではできないようなことも、いろいろとできるんじゃないかと思っています。だいたい独立するにしても金は無いし、子供は生まれるし、どうやって独立するんだか（笑）。自分一人でもやっていこうっていう人もいますが、不可能でないとしても、なかなかできることじゃないですね。

**吉野** 大きなリターンを狙うと結構なリスクが伴う商売ですよ。とても自分だけではここまでたどり着けない……。

**矢野** 信頼できる経営者のところにうまく勤められたからこうしてますけど、そうじゃなかったら独立するしかないって考えていたかもしれないですよ。逆に考えたら、独立したい人のなかには働きたいと思える

会社や経営者と出会う機会がなかったからというケースもあるかもしれませんね。

**吉野** 僕はそれで2カ所も転職しましたからね。今の会社は、社長が栽培についての知識も技術もあるし、販売にもすごい力を入れています。本当に希望通りの会社に勤めることができました。だからあえて独立する必要はありません。

**矢野** そういった会社や経営者が増えれば、そこでちゃんと勤めたい人が自然と集まるはずですよ。

**吉野** そうだと思います。農業はほかの職業と違う点もあるかもしれませんが、みんなが独立を目指さなくてもいいはず。思い描くような農業をするためには、勤める立場でいることが近道だったりすることが多いのではと感じています。

（まとめ・高橋瑞穂）